

麻布幼稚園だより 2月号

平成28年1月29日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「楽しい表現活動」

園長 大島 美知代

二十四節気の中の「大寒」1月21日が過ぎ、とても寒い日が続いています。毎朝、グリーンロードで子どもたちを待っていると息が白く、手も冷たくなります。8時50分が近付いてくると子どもたちが元気に走ってきたり、すでに待っている友達に声をかけてきたりして寒いグリーンロードには、にぎやかな声が響きます。3学期になって特に年中組がグリーンロードのところで保護者と別れ、「行ってきます」と一人で保育室に行く姿が増えてきました。「お兄さん、お姉さんになってきたね」と言うと誇らしそうな表情を浮かべ、走って行きます。3学期ももう2月、今年度の保育日数も残りがわずかとなってきています。

さて、今月の13日（土曜日）は最後の行事の参観日です。「子ども会」という名称で、子どもたちの表現活動の発表会です。今年度の参観日のまとめの意味があり、運動的表現としての『運動会』、造形的表現としての『作品展』を経験してきた子どもたちが最後の表現活動に臨みます。この表現活動は音楽的な表現もあり、言語的な表現もあり、身体的表現もあり、と総合的な表現活動ということになります。

「幼稚園教育要領」の中に『表現』という項目があり、そこに幼児に指導するねらいが下記のように書かれています。

表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

○ねらい(要約)

自分の生活の中でイメージを豊かにしてさまざまな表現をすることや考えたことや感じたことを自分なりに表現することを楽しむ。また、いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

今年度、本園の園内研究会では研究の主題として『幼児が生き生きと活動し、表現活動に進んで参加する幼児の育成を目指して』と題して研究を進めました。幼児の表現はまずは自己表現です。自分のやりたいこと、遊びたいことを子どもたち自身が集団生活の中で出して活動できるよう、教師は一人一人の子どもと信頼関係を築き、子どもの気持ちや考えを受け止め、表現することが楽しめるように援助します。その指導の方法や環境構成の仕方を今年度は学びました。

園内研究会ではそれぞれの学年で表現して遊んでいる事例を取り、それを全教員で分析することで教材や指導方法の適切さを協議し合い、「なぜ、表現するのが楽しくできたのか」を追求しました。その事例から分かったことを教員は次の指導に生かしていきました。

子どもは表現するのが大好きです。一人一人がいろいろな表現することでその子の気持ちが相手に伝わり、友達と一緒に楽しめたり、自分とは違う表現の仕方を友達の様子を見て知り、刺激を受けたりします。その過程で人と共に活動することの楽しさや協同して活動する面白さ、一緒に作り上げた達成感を感じていきます。また、練習の過程で自分の気持ちを調整することや人の考えや気持ちを尊重することなども大切なことも学びます。

2月13日はその発表の機会です。これから子どもたちは毎日いろいろな表現を出し合い、教師や学級の友たちと考えを出し合い、作り上げ、当日を迎えます。その練習の過程がとても大切です。自分が満足できた時の嬉しい思い、相手に分かってもらえなかった時の悔しい思い、考え直したり、新たに考えたりしてみんなの気持ちが一つになって、できた時の達成感、自己肯定感を味わわせたいと思います。保護者の皆様も子どもの成長について関心を寄せてください。充実の2月となるよう、教員一同取り組んでいきます。